

令和4年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日 時：令和5年1月21日（土）9：00～11：50

場 所：Web 会議

出 席

国臨協関信支部（敬称略・順不同）

吉田 茂久、椎名 將昭、齋藤 広樹、梅戸 克之、秋山 卓思、安中 未華、飯田 伊織
井田 貴明、市川 遼、鷹取 有紀、竹内 智也、千木良 浩志、中村 良幸、山口 卓哉
渡辺 順也、前島 基志、小沼 進吉、瀬下 明子

地区会代表（敬称略・順不同）

茨城地区会：熊谷 豊

栃木地区会：宮澤 寿幸

群馬地区会：新谷 和之

埼玉地区会：小沼 進吉

千葉地区会：山川 博史

東京地区会：前澤 直樹

東京・山梨地区会：澤部 祥子

神奈川地区会：植松 明和

新潟地区会：渡辺 靖

長野地区会：平原 博美

関東信越グループ 医療担当（敬称略）

前島 基志

1. 開会の挨拶（齋藤副支部長）

2. 支部長挨拶

平素より関信支部の活動にご理解ご協力いただき厚く御礼申し上げます。本来であれば集合型で懇親会を合わせての開催を検討して参りましたが、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザウイルスの同時流行に備えた対応として、皆様のご理解を賜り Web 開催といたしました。

本会議は年に一度地区会の皆様方から直接ご意見やご要望を伺い、今後の支部活動の活性化と地区会活動との連携強化に繋げていくための重要な役割を果たす会議となっております。

Web 会議となりますが、地区代表者の皆様方におかれましては忌憚のないご意見を出していただき、活発な討議をお願いいたします。

3. 臨床検査専門職挨拶

新型コロナウイルス第8波の感染拡大がする中、Web での開催となっておりますがご出席いただいております各地区代表者の方々におかれましては、各施設での新型コロナウイルスの対応等で業務多忙の中、ご参加いただきますこと心より感謝申し上げます。

昨年の各地区会を振り返ると、活動が極端に縮小された新型コロナウイルス感染初期の頃と比較して、その活動は徐々に再開されて活発化してきております。まさに With コロナを体感して

いるのが昨年ではなかったでしょうか。

その開催方式としては国臨協関信支部が契約している Zoom を用いるリアルタイムな Web 方式や YouTube を用いたオンデマンド配信が行われ、対面開催は未だ叶いませんがそれぞれの地区会が様々な創意工夫のもとに実施されております。

私としましても講演の依頼をいただき、お話をさせていただく際には Web であってもできる限り臨場感を持たせたいという思いから今年度はオンデマンド方式を行わずにリアルタイムの Web 方式にて対応させていただいております。Web 方式も最初は演者の温度感が伝わらなかったり、パソコンの操作に手間取ったりとマイナスのイメージが強い感じもありましたが、慣れるに従いまして移動にかかる時間に開放されたり、オンデマンドであればいつでも視聴できるという気軽さから Web 方式の利点が感じられるようになってきました。

関信支部におきましても昨年の第 50 回関信支部記念学会は Web 方式の EventIn といったものを用いて開催されております。そこでの参加者は学会の会場を自由に巡る方式となっており、実際の学会に類似した開催方式となっておりました。また各地区会で作成していただく地区会ポスターのコーナーは今までより多くの情報量を持たせることができるようになり、見る側としてもじっくりと見ることができるといった多くの利点を感じております。いままでの学会と比較しまして直接皆様方とお会いして情報交換の場としては寂しさを拭いきれませんが、先ずは大成功の学会であったのではないかと思います。

このように Web を活用した活動は新型コロナウイルスの経験から私たちが得ることの出来た新たな研修等の開催方式であり、新しいツールと言っているかと思います。今後迎えることになるであろう After コロナではこれらの開催方式を上手に使い分けることによって今まで以上に円滑で活発な地区会活動ができるのではないかと考えております。

4. 令和 4 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

5. 関信支部経過報告(令和 4 年 4 月 24 日～令和 4 年 12 月 2 日)

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った。

1) 事務局

2022 年 11 月 1 日時点の本年度総会員数（会費納入者数）は 679 名であった。

関信支部各地区会との連携、国臨協本部・臨床検査専門職・技師長協議会との協力・連携、文化活動、諸会議の開催、第 50 回国臨協関信支部記念学会学会賞選考、国臨協関信支部ホームページの活用について報告した。

経過報告期間における受理文書、受理メール、発送文書、発送メールについて報告した。

2) 学術

Web 会議システム Zoom の契約、令和 4 年度国臨協関信支部学術委員会部門長会議の開催、令和 4 年度国臨協関信支部主催第 1 回研修会、Web 会議ツール利用状況、Web 会議ツール申請書の受理、第 50 回国臨協関信支部記念学会について報告した。

3) 広報

国臨協関信支部ニュースは令和4年11月までに紙媒体として2回、PDF版(人事異動：令和3年11月2日～令和4年4月1日付)を1回発行した。内容は、関信支部記念学会のお知らせ、新理事紹介、施設から投稿された記事を掲載した。

昨年度から引き続き「集まれ若手技師～How about your work～」等、若手技師に向けた記事を掲載した。また「Case study」において、ホームページに掲載している解説へスマートフォンでも閲覧しやすくなるようにホームページのQRコードの掲載を行った。

国臨協関信支部ホームページは、関信支部活動や地区会情報誌の掲載、国臨協OB会関信支部だよりの掲載、第50回国臨協関信支部記念学会のコンテンツ作成等の更新を適時行った。

またホームページ更新のお知らせを施設連絡責任者宛にメール配信を行った。

6. 監査報告(前期)

1) 監査方法

2022年9月26日(月)から2022年10月3日(月)の期間にクラウド内の共有ファイル(Microsoft OneDrive)を利用したWeb会議方式による関係資料等の閲覧、チェックシートを用いた質疑応答を交え、前期監査を実施しました。本来、集合形式で実施するところではありますが、COVID-19の状況を鑑み、Web会議方式による監査となりました。

2) 監査結果

Webを利用した地区会定期総会・研修会では支部役員が出席され情報伝達および情報収集がなされていました。定期的な常任理事会は、Web会議で開催され活発な意見交換および関東信越グループ臨床検査専門職との情報共有もなされていました。また、国臨協全国支部長会議(Web会議)への出席など関係協議会との協力・連携も図られていました。

学術活動では、学術委員会との連携がとられ、Web形式オンデマンド配信による第1回研修会の開催、国立病院機構関東信越グループ主催研修会の令和4年度医療職(二)・福祉職キャリアアップ研修ではファシリテーターとして協力されていました。

広報活動では、国臨協関信支部ニュースが発刊され、会員からの投稿記事掲載、情報発信等がなされていました。支部ホームページでは適宜更新が行われ、スマートフォンの利用しやすい環境なども考慮されていました。

第50回関信支部記念学会は、多機能ブース型のイベントプラットフォーム「EventIn」を利用したライブ配信型オンラインで開催されました。28題の一般演題、ランチョンセミナー(3ブース)、北原 誠 先生による感慨深い特別講演、学術委員の超音波検査ライブデモンストレーションによる分科会、そして盛りだくさんの展示ブースも企画されるなど、集合型の学会開催と遜色のない素晴らしい記念学会になりました。

会計については、台帳や証拠書類の直接確認は困難となりましたが、前期決算報告書の支出割合等より適正に執行されていることが確認できました。詳細確認は後期監査の際に実施します。

以上、令和4年度前期の会務活動状況は適正であり、理事の会務執行に関して不正な行為や規約に反することなどは無いことを認めます。

7. 各地区会経過報告

1) 各地区会報告

各地区会代表者より組織状況、活動状況、会議関係、広報活動、学術関係、文化活動関係等の報告が行われた。

8. 各地区会提出議題

資料は事前に配布し、追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行った。

1) 事務局関連

(1) 会議や学会は Web が中心になっているので会費値下げの検討について

回答：(Ⅰ)会議や研修会等で使用している Zoom ミーティング Pro(5ID)プランの契約料（株式会社 V-CUBE）は、年間 407,484 円（税込み）(Ⅱ)学会運営で使用したライブ配信型オンラインイベントプラットフォーム方式 EventIn（株式会社 V-CUBE）は 8 時間以内講演×500 拠点配信で 1,331,000 円（税込み）(Ⅲ)ホームページ運営費用（GMO 利用料：114,912 円・更新料：1,628 円）116,540 円（税込み）で運営を行った。(Ⅰ)の運用実績等は別紙資料を参照。(Ⅱ)の実績は会員 431 名（会員以外の参加者：19 名）の参加を得て開催した。学会参加費用は無料にて実施した。(Ⅲ)ホームページ運用実績は別紙資料参照。新型コロナウイルス感染症を想定した新たな生活様式を遵守して支部運営を行っているが Web 関連費用は高額となっている。広告掲載収入も減少傾向にある。今後、支部ニュース等の発行費用、配送費用、行動費（交通費等）の値上げも予想されるため、経費の見直しなどを進めて会費の値上げ等につながらないように健全な事業運営に努めて行きたいと考えている。現状としては会費の値下げは検討していない。

(2) 関信支部理事について（協議会運営の基礎を関信支部にて教育していただき、上位組織へ円滑に参加できるよう人材育成の検討と組織の恒常的な運営をおこなうため、人材の適正な育成と組織の体質改善のために定期的な役員入替の実施、理事の負担を減らす仕組みや、持続可能な活動の再構築）

回答：今年度、支部役員の会務による負担を軽減するために支部役員の増員（3 名）を行いました。Zoom ミーティング Pro（Web）を活用し、Web 会議を主体的（常任理事会 12 回開催の内 10 回は Web 会議）に行うことで、集合型開催（遠隔地から交通手段を用いての移動など）負担の軽減化がはかれていると考えています。また、後進の育成については、各副支部長（学術・広報）と事務局長が統括し、事務局、学術、広報（ホームページを含む）に支部事業に精通したリーダー理事（専任）の指導の基で、理事（新人を含め）の教育及び会務を遂行している。理事は担当した部門の業務内容等の理解を深めるため、原則 2 期は同じ部門を担当していただくこととしている。各理事の理解度を確認しながら、定期的（1 回/2 期）に担当部門のローテーションを行いながら、幅広い会務を経験していただき、他協議会などの多くの人的交流を通じて、今後指導的立場で活躍してくれる人材育成に努めています。

- (3) 各地区会の支部理事について（各地区会の支部理事との連携、各地区担当理事と自施設の地区会理事との連携、活動状況報告などはポイントを絞り記載、報告）

回答：今年度、新たな試みとして各地区会（10 地区会）に原則 1 名の理事を配し、コロナ禍で途絶えがちとなっている地区会との交流（情報交換等）と会員の皆様方のご意見やご要望を迅速に支部運営に反映するための体制を構築しました。毎月開催（原則第 2 週目の木曜日）される常任理事会にあわせて、各地区会担当理事が、メールを用いて各地区会事務局長などから活動状況、要望事項などのご報告を受け、常任理事会で報告をいただいています。支部としてはリアルタイムで地区会の活動状況、ご意見やご要望などを把握することができて支部会務の運営に迅速に反映することができております。また各地区担当理事が所属する地区会の活動状況などを把握し、常任理事会で報告を行うことは彼らにとって良い経験につながっていると感じています。なにぶん初めての事業で支部からの説明不足もあり、各地区会の皆様方には、ご迷惑をお掛けしました。この場をお借りしてお詫びさせていただきます。来年度も継続してこの事業を行うかについては地区会の皆様方のご意見を伺い、第 51 回国臨協関信支部定期総会議案書の審議事項（事業方針）に加えて行くか判断したいと考えています。運営方法（報告手段や内容など）などでご意見がありましたらご教示ください。

- (4) Zoom などを用いた会議、研修、学会運営について《生活等式（SNS の発達、家族環境の変化、核家族化に伴う育児負担）の変化や遠隔地からの参加費用負担などを考慮し、コロナ感染終息後も継続し活用》

回答：令和 2 年度より Zoom ミーティング Pro（Web 会議システム）を採用し、会議、研修会等で活用していますが、3 年間の使用実績・効果などを検証し、会員からのご要望を考慮しながら、第 51 回国臨協関信支部定期総会議案書の審議事項（事業方針）に事業の継続について記載するのかを検討している。令和 5 年 9 月 2 日（土）に開催を予定している「第 51 回国臨関信支部学会」は、未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰 ～いま私たちができること～」で開催することに決まりました。集合型での開催を見送ることになりましたが、第 50 回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用して会員相互の交流の機会の充実を図ってまいります。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしくお願いいたします。

2) 学術関連

- (1) ガイドラインを取り入れた研修会の実施について

回答：具体的にどの分野についてなのか不明ではございますが、今後、検討させていただきます。各地区会よりこのガイドラインについて研修会を行っていただきたいとご要望やご意見がございましたら、是非、お聞かせいただきたいと思います。

- (2) Web+オンデマンド配信で新たに導入した検査法や各病院の特徴の検査などの情報発信、その施設に特徴的な症例を持ち寄って症例検討会や研修会などの開催について

回答：こちらにつきましても今後、検討させていただきます。

(3) Web 研修会につきまして

回答：Web 研修会は今後も継続して開催したいと考えております。現時点での研修会はオンデマンド配信とさせていただいており、3 週間程度の配信期間を設けております。また配信期間につきましては妥当ではないかと考えております。研修会の回数は年 3 回の研修会と症例検討会(本年度は未開催)の 4 回の開催となっておりますが、支部理事の負担等を考慮すると回数の増加は厳しいかと考えます。今後は、地区会主催研修会等を支部会員が視聴できるような運用を検討し、研修会の充実を図っていきたいと考えております。

研修会の Q&A 対応の強化とのご指摘をいただきました。現状では研修会視聴後にアンケートを実施し、そこでいただいたご質問につきましては、講師の方にお伝えし、ご回答をいただく流れになっております。今後はもう少しリアルタイムに対応できるよう検討させていただきます。

(4) 今後の研修会について

回答：研修会につきましては、現在 Web でのオンデマンド配信となっております。集合型の研修会につきましては、研修会の準備(会場の手配、講師の手配)に時間を要するため、新型コロナウイルス感染状況が刻一刻と変化する中で、開催基準を設けることは現時点で難しいと考えます。数百人が参加する集合型の研修会の開催につきましても未だに新型コロナウイルス感染症が終息していない状況ですので、新型コロナウイルスワクチンの接種状況や治療薬の確立等の社会的状況が整ってから、改めまして検討させていただきたいと考えます。また、支部としてもイベント開催に関しては素人同然で限られた状況の中で運営しておりますので、会員の皆様方におかれましてはご不便をおかけして大変申し訳ございませんが、何卒ご理解いただけると幸いです。

集合型の研修会が開催されることになりましたら、現地開催のみならず、オンデマンド配信等もできるよう準備を進めてまいります。また、ハイブリッド開催につきましては、外部の業者をお願いして開催することになります。料金を含めましてかなり高額になることが考えられます。限られた予算の中でハイブリッド型の研修会等を開催することが妥当であるかは今後の検討課題とさせていただきます。

3) 学術委員会関連

(1) 研修会につきまして

回答：研修会の内容につきまして、いろいろとご意見をいただき、ありがとうございます。「遺伝子検査関連」、「臨地実習指導者講習会」の内容につきましては検討させていただきます。タスク・シフト/シェアにつきましては令和 4 年 12 月に第二回研修会「臨床検査技師にとってのタスクシフト～その背景と今後に向けた考え方～」(基礎編)を開催いたしました。来年度は実技を含めたもう少し深く掘り下げた研修会を企画する予定です。

またハンズオンセミナーにつきましては、今年度の学会で学術委員会の分科会として生理部門の学術委員による超音波のハンズオンセミナーを開催させていただきました。ハンズオン

セミナーは器材の確保や準備期間を要するため、回数を増やす事は難しいかと考えますが会員の皆様のご要望を鑑みて、開催できるよう準備を進めてまいります。

- (2) 学術活動の広報的な役割を各地区会の担当者（若手）の活用。技師長、副技師長よりも技師の抜擢について

回答：今後の学術活動の案内や報告、情報の共有につきましては、各地区の担当者から積極的に行うよう指導いたします。技師長、副技師長よりも技師の抜擢等、もう少し具体的なお意見を伺えると幸いです。

- (3) Q&A(学術委員に対する質問)について

回答：学術委員会へのご質問やご意見につきまして、ご指摘いただきました通り、あまり活用されていないのが現状です。現在ではホームページより Q&A 用紙をダウンロードしていただき、支部に送付する形式を取っております。今後は方法の簡素化に取り組んでまいります。ホームページに掲示板等を設けて気軽に質問ができる環境を整えていけたらと考えております。ホームページの作りこみ等の状況も考慮しなくてはなりませんので、もう少しお時間をいただけると幸いです。ご理解のほど宜しくお願いいたします。

- (4) 学術委員の投稿を支部ニュース発刊前にチェックする体制について

回答：支部ニュースへの投稿に誤記述（誤記載）があった件について大変ご迷惑をおかけしたこと及び不快な思いをさせてしまいましたことを改めてお詫び申し上げます。現状では、学術委員に投稿をお願いしている「覚えよう身につけよう検査技術」、「CaseStudy」につきましては、専門的な内容であるため、基本的に内容のチェックについては学術委員の方にお任せし、誤字や脱字等についてのみ支部理事の方でチェックさせていただいております。学術的な内容のチェックにつきましては、今後、学術委員会の方々とも話し合いながら、第三者のチェック体制を行うなどの検討も考慮させていただきます。

4) 学会関連

- (1) 関信支部学会の開催方法について《関信支部学会の感染管理を考慮した集合型（ハイブリッド方式を含めた）での開催、Web 開催となる場合「EventIn」形式の継続と充実、Web+オンデマンド配信の継続》

回答：令和5年9月2日（土）に開催を予定している「第51回国臨関信支部学会」は、未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰～いま私たちができること～」で開催します。集合型での開催を見送ることになりましたが、第50回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用して会員相互の交流の機会の充実を図ってまいります。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしく願いいたします。集合型及びハイブリット型での開催は、他会場（ホテル、貸会議場など）を予約して借りることの負担（費用・会場運営・Web環境の設営等）も大きいため断念しました。従来会場として使用させていただいてい

た、国立国際医療研究センター病院の会議スペースをお借りできる状態が整い次第、検討していきたいと考えています。

オンデマンド配信は、関信支部主催研修会等で視聴期間を 3 週間と設定して運営を行っています。「EventIn」を用いた学会運営の場合、特別講演、学術委員による分科会、企業によりランチョンセミナーなどは録画することが可能です。しかし、支部で録画内容（音声、画像等）の編集に対応することはできません。また特別講演、企業ランチョンセミナーなどは、著作権等の問題もあり全てがオンデマンド配信に対応することはできません。しかし、可能な講演内容がありましたら、前向きにオンデマンド配信に対応していきたいと考えています。

(2) 最先端の検査を実施している NC などの内容紹介を動画で配信について

回答：NC 等でおこなっている最先端医療（検査・治療など）の講演や内容紹介の動画などについては、学術委員会と協調しながら、NC のご協力を得ながら今後の学会企画等に反映していきたいと考えています。動画配信（YouTube 等）については、運用方法、撮影機材（カメラ・照明・編集ソフトなど）の準備等が必要で、予算を計上する必要があるため、今後の検討課題としたいと考えています。

(3) Web 開催となる場合「EventIn」形式の継続と充実について

回答：学会抄録集については、今後、プログラム集を作成して会員に配信する運用方法に変更を検討している。プログラム集には一般演題の抄録は掲載しません。抄録については学会参加登録をされた会員の方々にメール等でパスワード (PW) を送付して学会専用ホームページから参照（ダウンロード等）が可能となる運用にしたいと考えています。プログラム集は A5 版（サイズ：14.8×21.0 cm）として、印刷費用、配送費用等の削減を行いたいと考え検討を開始しています。

(4) 地区会ポスター企画の再考（作成が負担となっている）について

回答：地区会ポスター作製は、歴史のある企画で、平成 24 年 9 月 1 日に開催された第 40 回関信支部学会から地区会コーナー優秀賞を選出しています。令和 3 年度第 49 回からは、PowerPoint 版での作成としました。年 1 回 10 地区の活動状況等をテーマに沿った形で各地区会が思考を凝らして個性あるポスターを作成いただいております、会員より人気のある企画で、毎回ご好評をいただいております。支部としては、継続して取り組んで行きたいと考えていますが、地区会のご負担を考慮する必要性もあると考えております。来年度以降の地区会ポスター企画の継続について各地区会からのご意見を頂戴したいと考えます。地区代表者会議で審議したいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

5) 広報関連

(1) 支部ニュースのメール一斉配信、書面の廃止について

(2) SNS を活用して、支部ニュース等の電子版の配信について

(3) 携帯版ホームページ、YouTube、メールマガジンなどのコンテンツの活用について

回答(1)(2)(3)：3項目の要望すべてが支部ニュースについて、現在の紙面発行から他のコンテンツに移行もしくは併用するといったものです。

検査関連学会等による情報提供については電子化に移行しているものも多く見られ、このコロナ禍の影響で加速しているように思います。しかし、支部ニュースにおいてはすべての会員に見てもらうことが一番の目的であり、検査関連学会等の専用サイトとは若干意味合いが異なるものと考えます。紙面配布することによりすべての会員が少なからず目にするようになりますが、電子化した場合は自らの意思でアクセスして見に行くという行為が発生するため、支部ニュースを見るという意思がなければ触れることすらなくなり、支部ニュースのみならず関信支部の活動自体の認知度が低下する恐れがあると思います。

現在、支部ニュースがスマートフォン等で閲覧出来ることを会員がどれだけ認識されているかが気になるところです。まずはスマートフォン等でホームページの会員専用ページから支部ニュースが閲覧できる方法を支部ニュースで掲載し、その後ホームページアクセス数等の動向を見るなどしてから改めて紙面発行の必要性を検討すれば良いかと考えます。

- (4) 研修会の感想文だけでは研修内容までは読みとれないので、参加された研修会の紹介などの記載について

回答：執筆依頼について、依頼状には細かい内容の要求はしておらずテーマ「●●研修会に参加して」としか記載していないのが現状です。今後は研修内容がある程度わかるような文面も盛り込んだ内容で執筆をお願いしますと依頼状に一言加えるということでしょうか。

6) ホームページ関連

- (1) 学術委員会からの情報提供等の充実について

回答：学術委員会提供の研修会資料等はホームページの資料アーカイブ等に随時掲載している。現在、学術委員会のページにはQ&Aを掲載しているが、学術情報の提供等の新コンテンツができれば随時掲載可能です。

- (2) 臨床検査技師に関する情報提供について

回答：臨床検査技師に関する情報は幅広く当ホームページで網羅するには限界があり、継続的な情報提供は困難であると考えます。当ホームページのリンク集から国臨協本部、日臨技や各種専門学会当のホームページへアクセスできるので、そちらを活用いただき、また新しいリンク先の要望があれば情報提供いただけたら追加します。

- (3) 動画コンテンツの充実化について

回答：研修会等の動画コンテンツについては試みましたが、動画編集や技術的な問題により実現できていないのが現状です。今後も検討していきますが、個人メインで管理するホームページとしては限界があるのでご理解していただけないでしょうか。

- (4) 支部ニュースに掲載しているコンテンツを、ホームページの会員専用ページに新たなバナーを設けて、過去掲載を含めて別途掲載について

回答：支部ニュースを各記事に分けて新たなバナーにする事については検討の余地はありますが、作業がかなり複雑化してしまうので実現は難しいと考えます。現在ホームページの支部ニュースページに PDF 版および内容の目次を掲載しており、それをより詳しく掲載することで対応したいと考えます。またホームページに PDF 版が掲載されていること、およびアクセスの仕方について周知されていないのではと考えます（スマホでも閲覧可能）。支部ニュース発行時に、施設連絡者宛に支部ニュース発行のお知らせをメール配信すると共に、PDF 版の周知もおこなっていくのはどうでしょうか。

7) 文化活動関連

- (1) コロナ禍終息後、無理なく参加ができる方法、10 地区全体での集合型文化活動は、会場、予算、感染管理等で難しくなっている。近隣の地区会で区割りをを行い、合同で集合型の文化活動を行う計画について

回答：未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、来年度についても関信支部は、積極的に大規模（200 人以上参加）な交流イベント（合同交流会・ビアパーティーなど）を開催する予定はありません。新型コロナワクチン接種、治療薬の処方開始などが促進され、社会的情勢が好転するのを待ってから検討したいと考えています。会員の皆様方のご要望を早期に実現すべく対応してまいります。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。つきましては、各地区会等で、小規模な交流会等を開催する予定がありましたら、支部まで情報提供をお願いいたします。支部役員の参加をお願いしたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

- (2) Web 利用も含めた文化活動の検討について

回答：Web 利用を含めた交流行事についてですが、令和 5 年 9 月 2 日（土）に開催を予定している「第 51 回国臨関信支部学会」を、前回と同様に「EventIn」を用いてテーマ「原点回帰～いまわたちができること～」で開催します。その際に第 50 回記念学会では充足した活用ができなかった「トーク・交流機能」を最大限に活用した会員交流トークスペース（グループ通話など）を開設します。また、会員参加型イベント（案：ブース回遊型スタンプラリーなど）を企画する予定で準備しています。多くの会員の皆様方にご参加いただきますように何卒よろしくお願いいたします。

8) その他

- (1) 臨地実習学生受入れ準備は各施設でどこまで準備できているのか

回答：令和 4 年 9 月 9 日（金）Web にて開催された「第 19 回日臨技設立母体別代表者会議報告」の中で、臨地実習指導者講習会進捗状況には臨地実習受け入れ施設が約 1,200 施設あり、2023 年冬には新しいカリキュラムの臨地実習生の受入れ開始が可能となる見込みで、現在は 660 名の受講者がおり 2023 年には 1200 名の受講を予定していて、2023 年 4 月より 1 施設 1

名の受講縛りが解除になる予定とのことです。また、8月19日（金）に開催された全国国立病院医療職（二）・福祉職協議会合同会議に提言要望として臨床検査部門より「2024年度の臨地実習指導者要件が適用において2人目以降の臨地実習指導者講習会受講費用の援助を提言要望した」と報告がありました。

- (2) コロナ禍における交流会が集合型でできているところがあれば、何をおこなったか知りたい
回答：令和4年11月1日（火）に開催された第30回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議において、全国支部長らの意見交換が行われ、現状としては、Web方式、ハイブリット方式（Web+対面）で開催しているとのことです。今後は、感染状況に応じて対面での開催を拡大していきたいとのことで意見の集約が行われました。

- (3) 今後、産休育休取得の可能性がある職員が増加していくと思われるが、困窮している時の対処方法や救済ルートの検討が必要

回答：国臨協本部報告の中で、8月19日（金）に開催された全国国立病院医療職（二）・福祉職協議会合同会議に提言要望し、医療職（二）・福祉職の共通要望事項に、「産休・育休・病休代替制度及び雇用条件等の改善」と「育児時間等の育児制度・介護制度の拡充」が緊急課題としての要望事項となった。令和4年度全国国立病院協議会合同会議に提言要望した。今後も医療職（二）・福祉職の共通要望事項への提言と院長協議会要望書への提言要望を行ったと、令和4年11月1日（火）開催された第30回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議で報告がありました。また、国立病院機構関東信越グループ医療担当前島臨床検査専門職より、予め産休・育休休暇を取得する職員の情報が分かった段階で、迅速にご相談してほしいとのことです。情報に基づいて対応策についてご相談させていただきたいとのことでした。

- (4) 職場長の定年・転勤による弊害を防ぐ為にも、希望があった場合は、副技師長の内部昇格も検討すべきでは

回答：副臨床検査技師長の内部昇格については、今のところ国臨協本部等で提言要望として検討させていない。「主任技師の内部昇格と転勤制度の見直し」については、8月19日（金）に開催された全国国立病院協議会合同会議に臨床検査部門からも「人材の確保と育成」を提言し、「一般技師から主任技師への内部昇格の検討」として男女問わず優秀な人材の内部昇格を早急に検討していただきたいとの提言要望を行ったと、令和4年11月1日（火）開催された第30回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議で報告がありました。

- (5) 日臨技が実施しているタスク・シフト/シェア講習会の各地区の受講者数、受講率などを支部が中心となり統計を取り、ホームページなどに掲載し、可視化してほしい

回答：令和4年9月9日（金）Webにて開催された「第19回日臨技設立母体別代表者会議報告」の中で、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会進捗状況は、2022年7月末までの修了者は、5,600名で、コロナの影響で実技講習が先送りになり今年度の目標の30%しか到達できていない。厚労省から依頼で、地域医療介護総合確保基金の追加募集について

て各都道府県技師会を通じて 3 職種連名の案内を出す予定。地域医療介護総合確保基金の追加募集を活用して講習会を受講していただきたいとのことです。今年度の事業が対象となり有効期日は 10 月 28 日（金）まで。来年度も継続の見込み。昨年度分について振り返りはないとのことでした。

令和 4 年 11 月 1 日（火）に開催された第 30 回国立病院臨床検査技師協会全国支部長会議において、各支部での受講状況を本部にて把握してほしいとの意見も出ており、関信支部においても各施設長のご協力をいただき受講者数、受講率などを集計していきたいと考えております。その際は、ご協力をお願いいたします。

【日臨技 8 月 1 日現在で所属している会員数に対する修了者の割合】 関東甲信支部 基礎：申込 3,272 人 修了 1,999 人 実技：R3 修了者 476 人 R4 修了者 622 人 合計 1,098 人（修了率 11.9%）、首都圏支部 基礎：申込 3,186 人 修了 1,812 人 実技：R3 修了 122 人 R4 405 人 合計 527 人（修了率 3.8%）

【国臨協・国臨技長会 調べ】対象施設 162 施設（5 月 1 日付：会員数 2,083 人）基礎修了者 357 人（17%）実技修了者 76 人（4%）求められている施設（具体的業務が示されている 10 施設を含む）：35 施設（10%）、求められていないが検査室内で検討している施設：44 施設（27%）、施設から求められず検査室としても対応を考えていない施設：83 施設（51%）

9) 自由記載

- (1) 地区代表者会議の要望を考える上で、支部の活動方針、来年度事業方針（原案）など、何を問題としているかを示してもらいたい。

回答：例年、地区代表者会議資料集のプログラムに、「討議事項：支部提出議題（事務局・学術・広報）」として次年度の活動方針（案）や事業方針（案）に関連する事項について記載し、ご説明を行っていますが、本来重要な審議事項であり、十分な審議時間を設けてご意見を伺わなければならないところ、会議の終盤になって審議を開始することもあり、説明と確認程度で終わってしまっている傾向があります。本年度からは、支部、地区会からの経過報告などに要する時間を簡素化して十分な審議時間を設けたいと考えています。ご理解とご協力をお願い致します。

- (2) タスク・シフト/シェアの推進について、今後も現状報告と展望について情報共有をお願いする。救急医療の現場における医療関係職の在り方に関する厚労省検討会資料で、救急外来には臨床検査技師の配置がないことが示されていた。タスク・シフト/シェアの観点からも救急医療体制における臨床検査技師の役割について講演等を企画してほしい。

回答：タスク・シフト/シェアの推進について、今後も現状報告と展望について情報共有については、「その他：回答 5」をご確認ください。救急医療現場での臨床検査技師に求められるタスク・シフト/シェアについては、日臨技中部圏支部学会（10 月 9 日（土）開催）で「タスク・シフト/シェアの実践」にてさくら総合病院「採血にプラスの発想で」の発表で、検査技師が救急外来で静脈路確保（生食ロック含む）を担当し行っているとの報告がされていました。関信支部の中でも令和 5 年 1 月発行した関信支部ニュース 231 号「特集：救急現場のタスク・シ

フト」題して、国立国際医療研究センター病院中央検査部門 川口 港 氏より救急外来での取り組みをご紹介いただいています。また12月1日～23日オンデマンド配信にて第二回研修会「臨床検査技師にとってのタスクシフト～その背景と今後に向けた考え方～」(基礎編)を開催しました。来年度以降も学術委員会のご協力を得ながら支部主催研修会において実技や各施設での取り組みなどを中心とした研修会の開催を計画しています。ご期待ください。

10) 地区代表者質疑応答

(1) 事務局関連

各地区会の支部理事について(各地区会の支部理事との連携、各地区担当理事と自施設の地区会理事との連携、活動状況報告などはポイントを絞って記載、報告)

各地区会(10地区会)に原則1名の理事を配した感想

茨城地区会：熊谷 豊

地区会に理事がいるため非常に緊密連携している。

栃木地区会：宮澤 寿幸

特筆する報告事項なし

群馬地区会：新谷 和之

各施設長、地区会理事に事前に伺った回答として、若手理事の経験値を上げるためには役立っていると考えている。地区理事会等にも出席していただいて、支部活動の報告をしていただいてもよいのではないかという意見があった。またリアルタイムで地区会の活動状況、ご意見やご要望などを把握することができて支部会務の運営に迅速に反映することができている具体例が知りたい。

埼玉地区会：小沼 進吉

特筆する報告事項なし

千葉地区会：山川 博史

支部との連携がとれるのでいいと思う。

東京地区会：前澤 直樹

各地区会から1名出す方針にしたから支部の理事人数が増えたのか。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

誰が地区会を担当している理事かわからない。また毎月の活動状況報告をしているため、地区代表者会議の地区会資料については関信支部でまとめればいいのか。

地区会の会員数についても関信支部でまとめればいいのか。

継続については人事異動の際に大変ではないかと考えている。担当者が途中で変更になることで負担になるのではないかととも思う。

個人的には以前のままでいいのではないかと考えている。

神奈川地区会：植松 明和

考え自体はいいが、機能的な実感がない。

新潟地区会：渡辺 靖

地方から関信支部との繋がりが増えるため、総論的な考えは賛成である。

各論的に考えると、何かが変わったように感じない。

長野地区会：平原 博美

特筆する報告事項なし

関信支部回答

支部の理事人数が増えた件について、前年度まではなるべく行動費を縮小するということで理事人数を減らしてきた。今年度は会務の負担も多く、負担を軽減するためや新型コロナウイルスによって各地区会に出向いて情報提供もできないこと、各地区会とのリアルタイムな情報収集したい希望があったため各地区会から理事を配した。

月に一度、各地区会に所属している理事より地区会状況や要望の収集を行い、関信支部常任理事会で報告や検討を行っている。

今年度から初めての試みのため、会員の皆様方からは事務的な手続きが煩雑だと意見も挙がり、負担になっている意見もあった。今後、この活動の継続について地区代表者の意見を伺いたかった次第である。

東京地区会：前澤 直樹

何かが変わった様には思えない。ほかの地区はどう感じているのか。

群馬地区会：新谷 和之

前会長から支部への質問事項に対して、地区会所属の理事を介して連絡したことにより迅速に2日後には回答をいただいたという意報告があった。

また地区会から支部事務局に依頼していた支部ホームページ掲載の地区会だよりや地区研修会を地区会所属の理事が対応することで迅速に対応することができたという意見もあった。

関信支部回答

2月の常任理事会で精査する。

(2) 事務局関連

Zoom ミーティング Pro (5ID) プランおよびライブ配信型オンラインイベントプラットフォーム方式 EventIn の契約について

群馬地区会：新谷 和之

Web ツールに会費を費やすことは当然のことと認識している。しかしお金についての意見が地区会内で挙がった。

Zoom ミーティング Pro プランは 1ID ごと約 20,000 円の年関契約にオプションでウェビナーを付随させている契約だと思うが、現在 Zoom ミーティング Pro プランは 1ID における参加者の上限が 100 名でウェビナーが 10,000 名程度だと認識している。Microsoft Teams は同様に参加者上限 100 名で現在会議時間の制限がほぼ無制限となっている。使用実績から 41 回使用となっているが費用対効果を精査するという意味で Zoom ミーティング Pro プランでなければ対応できなかった会議はあったのか。

関信支部回答

専門的な知識がなく、実際に Zoom ミーティング Pro プランでなければいけないという理由を現時点で回答することができない。

Zoom ミーティング Pro プランの契約は 1ID 単位の契約ではなく 5ID の契約となっている。

群馬地区会：新谷 和之

最小単位の Zoom ミーティング Pro プランが 5ID であると思うが、Microsoft Teams で賄える会議が多く EventIn のみの契約でもいいのではないかと。会員数 600 弱の組織において Zoom ミーティング Pro プランの 5ID が適切であり必須なのか知りたい。

関信支部回答

Zoom ミーティング Pro プランを導入する際に数カ所のプランを検討したが、当時金額が一番抑えられたのが現在契約しているプランであった。Zoom ミーティング Pro プランの 5ID についても検討の際に費用対効果が一番ある見込みであった。契約当時は Web ツールに対して慣れる必要があったため数年同じプランで使用してきた。

指摘の通り、契約を継続していくかは精査して検討させていただく。

(3) 学術関連

ガイドラインを取り入れた研修会の実施について

茨城地区会：熊谷 豊

ガイドラインの出ている呼吸機能や超音波について、ガイドラインに沿った研修会を開催していただきたいと意見があった。

関信支部回答

学術委員会と共同して来年度に活かしていきたい。

神奈川地区会：植松 明和

茨城地区会と同様に呼吸機能の検査が精度管理の問題も出てきた。しかし呼吸器学会に所属しないとガイドラインが手に入らないため、確かに研修会に取り込んでもいいと思う。

群馬地区会：新谷 和之

神奈川地区会からお話があった様に、このような研修をしてほしいといった要望は地区会担当の理事に要望を出せばいいのか。

関信支部回答

要望いただければ対応させていただく。直接、事務局に連絡していただいてもかまわない。

(4) 学術委員会関連

学術活動の広報的な役割を各地区会の担当者（若手）の活用。技師長、副技師長よりも技師の抜擢について

埼玉地区会：小沼 進吉

若手の技師を活用してほしい想いがある意見があった。支部活動と通じた人材育成、後進を育てていくための質問であった。支部活動により関わらせていただければと思う。

関信支部回答

是非とも推薦いただける方がいましたら、お願いしたいと考えている。

(5) 学会関連

地区会ポスター企画の再考（作成が負担となっている）について

茨城地区会：熊谷 豊

負担になっているところはある。内容について煮詰まってきたところがあるため、毎年ではなく隔年でいいのではないかという意見があった。

栃木地区会：宮澤 寿幸

集合型の研修会や懇親会が行われていないためデータはないが、ポスターを作成することが交流の場となっているので継続的に続けていただければと思う。

群馬地区会：新谷 和之

年度計画の一つとしているため、特に負担と感じてはいないという意見が多かった。負担と考えている地区はどの辺りに負担を感じているのか伺いたいと思っている。一つ問題なのはテンプレートとなる企画案やテーマがあると思うが、なるべく早い時期に伝えていただけると地区会として動きやすくなるのではと思っており、負担の軽減になるのではないかと強く意見があった。

埼玉地区会：小沼 進吉

多少の負担があるという意見はあったが、今まで継続していたように写真を撮ることやポスターを作成することで地区会活動がより明確に近く感じられるため継続が非常によいという意見もあり、継続していただけたらと思う。

千葉地区会：山川 博史

負担ではあるが栃木地区会で言われたようにコロナ禍で地区会理事同士集合できない中、ポスター作りに関して集まって意見を言えたことは非常に有意義であった。交流の面として企画があることはよかったと言える。

東京地区会：前澤 直樹

特に負担である意見はなかった。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

継続でよいと思うが、新人紹介を地区会ポスターと別に作成することに関して新人紹介はそれぞれの地区会広報誌に盛り込まれており、関信支部ホームページで閲覧できると思うので負担軽減を考えるなら地区会ポスターの作成のみでいいのではないかと思う。

また今までの各地区会ポスターが関信支部ホームページで閲覧できるようになるとポスター作成の参考になってよいと思う。

神奈川地区会：植松 明和

負担となっている意見はないが、地区会ポスター企画はよろしいのではないかとと思っている。東京・山梨地区会からあった過去の各地区会ポスターを関信支部ホームページで閲覧できるようにしていただくことは作成する地区会理事の参考になると思う。

今年度から EventIn でポスターを閲覧できたと思うが、どの程度の閲覧数があったか集計できていれば教えてほしい。

新潟地区会：渡辺 靖

作業自体に大変であるという声はなかったが、好評を博しているという盛り上がりがどの程度なのかわからない。個人的に内容がある程度決まっているためマンネリ化しており、何とか

ならないものかと考えている。今のまま似たような内容で継続していくのは飽きが来るのではないかと懸念している。

長野地区会：平原 博美

地区会ポスター企画は地区会活動で一番大きな活動になっているので、その企画を実行する前提で地区会理事は臨んでいる。

今まで地方の地区は関信支部との繋がりにおいて他地区会のことを知らなかったもので、学会に赴いて他の地区会活動をポスターから通して見ることは有意義であった。今はホームページにおいて他の地区会のニュースや関信支部常任理事会の議事録も見せていただいているので、Web を活用している今の時代に地区会ポスターを関信支部がどのような位置づけにしているのか、地区会自体が地区会ポスターをどのような位置づけにするかというところを今一度再考していただいてもいいのではないかと考えている。

テーマが毎年決められているが、そのテーマにどう寄り添っていくかは地区会において非常に悩ましいところでもある。それが楽しいという一面もあるがテーマによっては早めにお伝えいただけると、そこから考えて材料を集めなければいけないので時間があつた方が楽な気がする。

長野地区会は 6 月または 7 月の総会をもって地区会理事が変更となる。そこでどのように引き継ぐか問題が出てきてしまうがテーマが決まる中で引き継いでいくことは可能である。地区会理事を引き継いだ途端に新人の理事がテーマを振られて対応するのは非常に難しいという地区会事情が確かにあるが、そのため位置づけというものを考えていただければと思っている。

関信支部回答

地区会ポスターを掲示していた画面は費用縮小のために EventIn とは別の無料サーバーを用いて作成しており、閲覧数の集計はできなかった。

皆様方からご意見いただいて地区会ポスター企画を作ることについて、大変であるということを実感した。テーマについても与えることでポスターを作成しやすくなると考えていたが、テーマが重荷になっていることを理解させていただいた。

企画について見直す時期が来ていると思うため、再考させていただく。

(6) 広報関連

研修会の感想文だけでは研修内容までは読みとれないので、参加された研修会の紹介などの記載について

群馬地区会：新谷 和之

要望が様々なところから来たため運用を変更するのか、少ない声だけで運用を変更するのかわからない。少ない声であれば、それだけで運用を変更していいものか尋ねたい。

関信支部回答

意見自体は 1 か所からの声であった。皆様方のご意見も知りたいところである。

群馬地区会：新谷 和之

レポートを書かなければいけないのではという認識があり、事前に広報を書く職員を決めた

段階で研修会などに参加してもらうようになってしまうという懸念が出た。

関信支部回答

広報を書いていたいている方の内容は今まで問題はないが、読者目線でどのような内容であったのか紙面から読ませることが上手くできていないため、関信支部から工夫をして研修会の概要を含ませてもよいのではないかと考えた。ご意見をいただいたので、紙面構成を再考し見直していく。

(7) その他

今後、産休育休取得の可能性がある職員が増加していくと思われるが、困窮している時の対処方法や救済ルートの検討が必要。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

産休育休取得職員については、早い段階で私まで情報提供をお願いします。各施設の状況によると思うが、代替職員の要望を提出していただき、登録選考試験の合格者から補う方法や各施設で期間職員や非常勤といった形で補う方法などその施設にとって最もよい方法を相談しながら進めていきたいと思っている。

(8) その他

職場長の定年・転勤による弊害を防ぐ為にも、希望があった場合は、副技師長の内部昇格も検討すべきでは。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

職場長の定年は必ずあり、計画的にわかっていることである。各施設において弊害が生じないように改めてお願いしたい。転勤についても弊害が生じないように調整したいと考えている。希望があった場合は副技師長の内部昇格といった話もあるが、副技師長の業務は職場長を補佐することが業務であるため、技師長を欠いた際の後任として副技師長が着任するということはその通りだと思っている。

また職場長と副技師長の管理業務への対応力といったものは経験の差から大きな差があることがほとんどであり、国立病院機構の人事異動では当該施設の技師長の技量により近い人材を調整して配置できることや前任とは違った視点で評価運営することによる職場への効果といったものが異動に対して期待されている。人事異動によって検査室の運営に大きなメリットがあると思っているので、ご理解いただきたい。

(9) 自由記載

地区代表者会議の要望を考える上で、支部の活動方針、来年度事業方針（原案）など、何を問題としているかを示してもらいたい。

群馬地区会：新谷 和之

この要望は会議前に方針を示していただきたいと見受けられるが、回答が会議中に方針を示すように見受けられミスマッチに感じる。

関信支部回答

質問の意図が読み取れず回答が不一致であったかもしれない。

地区代表者会議の中で支部の活動方針、来年度事業方針について本来は提示していきたいが、皆様方のご意見をなるべく聴いた形で支部の活動方針、来年度事業方針を2月開催の常任理事会で決定し、定期総会に提出したいと考えている。本来はご指摘の通りだが、現状できてはいない。今後見直していく点であると感じるため、意見を踏まえて来年度にむけて検討していく。

(10) 追加質問

東京地区会：前澤 直樹

地区代表者会議とはなにか。

東京地区会：前澤 直樹

初めて参加すると何をする会議なのか正直わからない。例えば今後関信支部が「このような」方向性で「このような」ことをやっていくことに対して、会員の代表として意見を求める会であれば当然来年度事業方針など今回の資料として出てこなければならない。現時点である1月に開催していて提示できないのであれば、地区代表者会議を1月に開催する必要性もないと考える。全部揃えてから定期総会前に先んじて地区代表者の方々に今後の方針を提言して、代表である地区代表者が従い協力するといった回答をした後、定期総会に臨むといった会議ではないのか。

関信支部回答

長年開催してきた内容を粛々と継続している現状が実際である。

見直す機会も逸していると感じている。

ご指摘を受けたので、来年度の開催に向けて見直していく。

東京地区会：前澤 直樹

どの協議会も今までの慣例に倣って年間計画を立てているが、実際何のために活動してきているのか抜けてきているところが多いと思う。コロナ禍で様々なものが変わって、例えばできなくなったものや削除していくものは多いが、活着ているところは何のために継続しているのかもう少し検討していただきたいと考えている。

関信支部回答

今一度検討を行い、事業継続や中止は検討のもと会員の皆様方に提示していく所存である。

(11) 追加質問

神奈川地区会：植松 明和

今後、集合型または対面方式を開催する際の基準が知りたい。また各地区会代表者の方で2023年に集合型で企画されているところがあれば知りたい。

関信支部回答

集合型の基準は政府の対応に準じる。

関信支部として集合型開催は検討段階である。

東京地区会：前澤 直樹

東京地区会は人数が多いが、このまま何時までも顔を合わせずに何も行わないことは問題であると強く思っている。いきなり関信支部レベルで何百人という規模で何かを行うことはハードルが高いと考えている。各地区会から少しでも進めなければと強く思っている。

考えていることとして例えばいきなり 100 人以上の人数を集める会をいきなり開催するのか。新卒の 3 年目までの若い職員たちが隣の病院にいる職員を知らない状況なので、入職 3 年目までの職員を集めて何かを行うなどある程度人数制限をしながら少しずつ今年度は何かをして行きたい。

各地区会が動き始めて行って、その後に関信支部が動くまたは国臨協本部が動く形になるのかと思っている。

群馬地区会：新谷 和之

群馬地区会は特に決まっていはいないが、東京地区会の回答には賛成である。

各地区会で何かを開催された場合、情報としてリアルタイムに閲覧できるツールが現在ない。支部ニュースやホームページで事後報告として確認できるのみなので、関信支部のほうで各地区会の企画を広報していただければと思う。

関信支部回答

リアルタイムな情報提供を今後検討して、ホームページを併せて提供していく。

(12) 追加質問

東京地区会：前澤 直樹

地区代表者に意見を伺いたい。

東京地区会：前澤 直樹

若い職員を集めるアイデアや意見が知りたい。

タスク・シフト/シェアについては本当に始まる時に影響があるのは若い世代であると考えている。だが若手はタスク・シフト/シェアについて全く知らない職員ばかりなので、若い職員を中心として研修を行いたいと思っている。他の地区代表者も若い職員を集めて何か会を行うとした場合の意見を持っていたら教えていただきたい。

神奈川地区会：植松 明和

プレゼンテーション形式でどのような業務を行っているか参集方式で発表していくのは面白いと思う。また、ほとんどの職員が学会に参加していない場合が多く見受けられるため、年々継続して人対人のプレゼンテーション能力を上げていただきたいと思う。

群馬地区会：新谷 和之

ラボツアーはどうだろうか。群馬県から東京都の大きい施設へ見学するなど提案したい。

(13) 提案事項

東京地区会：前澤 直樹

すべての地区会の会期に関信支部の会期に合わせられないか。

群馬地区会：新谷 和之

各地区会の総会が同時期になると地区の総会へ出席する関信支部や専門職の対応が困難にな

と思われる。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

もともと各地区会はそれぞれ立ち上がってきており、その立ち上がりを見ると他の地区会と重ならないように当時の専門職の予定に合わせたように記憶している。

同時期に開催となればやり方を検討していきたいと思います。

東京地区会：前澤 直樹

何のために各地区会に専門職が来ているのか。関信支部でまとめて1回でできないのか。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

伝達事項を伝えるためである。

関信支部でまとめて開催することは可能であると思う。

埼玉地区会：小沼 進吉

直接、専門職や関信支部の支部長と特に若手の職員が意見交換できる。また総会後に懇親会も開催されることで直接意見交換できる場でもあったので、支部全体というより少ない人数で懇親会など含めて親睦を強める意味があったのではないかと感じる。

9. 関信支部提出議題

1) 事務局

- (1) 合同交流会の廃止および令和5年度集合型懇親会（ビアパーティー等）の中止について
令和5年度集合型懇親会（ビアパーティー等）についても新型コロナ感染状況および例年の参加者を収容できる会場の確保が難しいことより中止する。
- (2) 第51回国臨協関信支部定期総会（電磁的表決など）について
国臨協本部と同様な電磁的表決を検討している。
- (3) Web会議システム（ウェビナー）の契約継続について
関信支部としては三役・理事・相談役ともに継続が必要であると考えている。社会情勢を考えた、なくてはならないツールとなっているため、昨年度、今年度に経験した知識・技術を次年度にも継続して提供したいと考えている。
- (4) 令和5年度国臨協関信支部会費（4,000円）について（報告）
Zoomライセンス費用や学会運営時の業者利用もあるため会費の値下げは考えていない。

2) 学術

- (1) 第51回国臨協関信支部学会の開催方法について
未だに終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症に対応するため、前回と同様に「EventIn」を用いてWeb開催としたい。「トーク・交流機能」を最大限に活用して、前回以上に会員相互の交流の機会の充実も図りたいと考える。

(2) 令和 5 年度の国臨協関信支部主催研修会の開催方法について

令和 5 年度の研修会については例年にならない年 4 回(うち 1 回は症例検討会とする)の開催を予定する。来年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、集合型の開催の検討が必要と考えるが、現状では今年度同様のオンデマンド形式での開催が望ましいと考える。

(3) Web 会議ツールの今後の利用について

次年度も Web 会議システム(ウェビナー)の契約継続が必要と考える。支部関連の会議に加え、今年度は地区会の利用率が増加していることを鑑みて、各地区会においても必要不可欠なツールとして認知されたものにとらえている。今後も各地区会において、総会や研修会等の利用を推進していただきたいと考える。

3) 広報

(1) 支部ホームページおよび支部ニュースの認知度向上について

ホームページに掲載しているさまざまな情報や電子版支部ニュースの閲覧方法を支部ニュースで特集として紹介したいと考えている。また施設連絡責任者宛のメール配信時に支部ホームページや支部ニュースの QR コードを配布も検討している。

4) 地区代表者質疑応答

(1) 事務局

令和 5 年度国臨協関信支部会費(4,000 円)について(報告)

東京地区会:前澤 直樹

値下げを考えていないとのことだが、今後活動が以前のように戻った際に今使用している Web ツールは使用していくのか。ハイブリッド形式や Web ツールを使用しなくなった場合、理事の行動費が増えると思うが今後の会費についてどう考えているか教えてほしい。

関信支部回答

このようなシステムを活用していくと非常にお金がかかり、また行動費による費用がかかるということについては見直しが必要である。今後、会費を値上げはせずに行動費を抑制する方法を検討させていただく。

東京地区会:前澤 直樹

値下げを考えていない理由は理解するが、一時的な減額も行っていないのは関信支部だけであり、一時的な減額ができない理由はなぜか。

関信支部回答

システムの的なコストがある。関信支部学会や研修会の費用も徴収していないこともある。

東京地区会:前澤 直樹

30 演題を切っている関信支部学会に今後も高額な費用を割いて今後も Web 開催を行っていくのか。

関信支部回答

次年度は EventIn を用いて学会を継続する意向はあるが、さらに次の年度は会場について検

討する。

東京地区会：前澤 直樹

関信支部学会についても考え直す時期がきているのではないかと。関信支部学会に演題を増やす活動をする必要があるのではないかと。

関信支部回答

見直す時期が来ているのではないかと感じる。活動については日常業務の合間に行っているため難しい。

群馬地区会：新谷 和之

他の 6 支部がどのように支部学会を開催しているのか関信支部へインプットすることはできないのか。

関信支部回答

2 月開催の全国支部長会議で情報収集を行い、ブラッシュアップする。

関東信越グループ 医療担当 前島 基志

学会の演題数に関しては全体的に減少している。新型コロナウイルスの関係で専門学会も開催を見送っており、Web 形式となり肌感覚ではあるが全体的に減っていたと感じる。今後、対面で開催される学会も増えてくるので演題数も徐々に全体的に増えてくると予想される。今まで学会に演題を出さないことに対して各施設が甘えているところもあるため、この段階で引き締めを行って、若い職員の学会発表を促すように職場長の方をお願いしたい。

(2) 事務局

合同交流会の廃止および令和 5 年度集合型懇親会（ビアパーティー等）の中止について

茨城地区会：熊谷 豊

個人の意見としては開催したほうがよい。退職者を囲む会としてとして機能してきたが、数年開催されていないためできるのであれば開催していただきたい。

栃木地区会：宮澤 寿幸

機会があれば開催したほうがよい。若い職員の交流の場となり、場慣れという意味で会う機会があったほうがよい。中止してしまうと育成に支障がでるのではと考えている。

群馬地区会：新谷 和之

今年度は中止であり、次年度は再度検討する案はよいと思います。

ビアパーティーは支部の会計に計上されていないが、支部事業として出してよいのか。

埼玉地区会：小沼 進吉

開催については 4 月以降の新型コロナウイルスの状況により、厳しいと考えている。

合同交流会の事業として継続は規模も大きいため、個人的には厳しいと感じる。

千葉地区会：山川 博史

開催の継続はよいと考える。若い職員は廃止したい考えがある印象が強い。

東京地区会：前澤 直樹

合同交流会は本来の事業でないとするれば関信支部の事業に取り入れる考えはないのか。継続するための発想はないのか。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

廃止は反対である。合同交流会には歴史があるため OB 会含めて検討するべきである。

神奈川地区会：植松 明和

合同交流会は開催するべきである。

新潟地区会：渡辺 靖

合同交流会は一つの区切りになるため、参加したい。

ビアパーティは人数や会場の関係上、現実的に難しいのではないかと思う。

長野地区会：平原 博美

合同交流会は廃止でないほうがよいと思う。参加することで職員の目線が広がる大切な場であると考えて入る。やり方は屋外や式典のみハイブリッドなど検討の余地があり、会食することがすべてではない。運営については回答が難しい。

関信支部回答

ビアパーティは支部の事業として開催している。

合同交流会については参加される会員からの会費によって運営される会となっており、関信支部が企画、準備、運営を行っている。国臨協関信支部が行う年度事業として、同交流会を取り入れていないことは無く、今までの慣例から正式な年度事業として予算建てをして、定期総会の事業計画（案）として取り入れて行くことは討議していなかった。今後、改めて検討を行ってみる。

神奈川地区会：植松 明和

合同交流会の始まりは、各施設で開催されていた退職者に対する会が個々に開催されると費用が高くなるため合同交流会という場になったと思うが、廃止した場合もとに戻り繰り返されると思われる。継続を期待する。

(3) 広報

支部ホームページおよび支部ニュースの認知度向上について

神奈川地区会：植松 明和

他学会で行っているように会員全体に一斉メールして、そこから閲覧できるようなことはできないのか。

関信支部回答

一斉メールはしていない。検討は行っていく。

(4) 全体を通しての質疑

群馬地区会：新谷 和之

地区代表者会議の質問に対する事前回答を掲載した資料はとてもよい資料であると思っている。実際に各地区会の要望がどこから来ているのかわからない。要望を選んで掲載しているのか、質問文が原文のまま掲載されているのか疑問が意見としてあった。

前期監査が終了しているが、監事に対して要望の共有はどのようにしているのか。

関信支部回答

地区会から要望がほとんどないのが実際であり、前期分は議事録に掲載している神奈川地区会から1件であった。前期監査にて、対応内容の取り扱いについて監事よりご指摘を頂戴した。その後は、馬地区会から1件の要望があり、支部長が回答（案）を作成し、常任理事会で討議を行い、回答用紙をメールにて事務局長宛に返信を行った。回答については、今後は監査の際に、資料として提示することを考えている。

群馬地区会：新谷 和之

要望を知る機会は地区代表者会議だけであるのか。

関信支部回答

来年度継続するか検討中であるが、継続する場合はホームページや施設連絡責任者宛てに見えるように配信していきたい。

東京地区会：前澤 直樹

要望に関信支部に挙げる手順が関信支部地区会担当理事であるとすれば、要望を挙げる際は地区会長からなのか、各施設連絡責任者からなのか。

地区代表者と関信支部のやり取りの手順を形にしていきたい。

関信支部回答

個人単位での要望は、事務局に連絡することで随時対応する。

地区会単位での要望は、関信支部の各地区会担当常任理事から地区会事務局担当理事へ月末配信されるメールに添付されているファイルに要望を記載して返送する。

広報の今後の活動として会員の声をホームページからメールいただくフォームを作成している。個々からの要望をもらう手順は作成中である。手順書については国臨協本部の方法を参考にしながらブラッシュアップさせていただく。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

地区会の役員が変わった段階で関信支部の地区会担当理事から担当である旨の連絡があるとよい。

群馬地区会：新谷 和之

各地区から関信支部理事が選出されるのであれば、各地区会から関信支部理事として関信支部地区会担当理事を推薦したらどうか。

東京地区会：前澤 直樹

流れはいいが、反対である。

東京・山梨地区会：澤部 祥子

関信支部地区会担当理事は事務局や学術などの業務も行っているが負担を減らしてあげてほしい。

関信支部回答

重々承知させていただいている。関信支部役員を初年度である理事は数年担当している理事と同じように動けるわけではないので、来年度に理事を継続する場合は同じ役務を継続してもらう予定である。

10. 相談役挨拶（前島相談役）

本日は長時間にわたり、地区代表者会議お疲れ様でした。地区代表者の方々からいただきました貴重なご意見につきましては関信支部において再度検討いただいて今後の活動に活かしていただきたいと思います。今後は今まで以上に各地区会と関信支部が寄り添いながら様々な行事や事業を推進していただけたらと思います。

11. 支部長挨拶

ご意見いただきありがとうございました。様々なご指摘をいただきましたので見直ししながら改善に努めます。今年度につきましては集合型の研修会や交流の場をつくることはできませんでしたが、次年度は新型コロナウイルス感染症の流行状態や国及び都道府県の対応などを鑑みながら、新型コロナウイルスが流行する以前の活動状況に近づけていけるように、会務に努めてまいりますので、地区会の皆様方におかれましては、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

12. 閉会の挨拶（椎名副支部長）